



小学生棋士奮闘中!

～北秋田市ちびっこ将棋教室～

伝統文化こども教室推進事業の一環としておこなわれている「北秋田市ちびっこ将棋教室」ですが、毎回多くの小学生棋士が参加し、盛り上がっています。

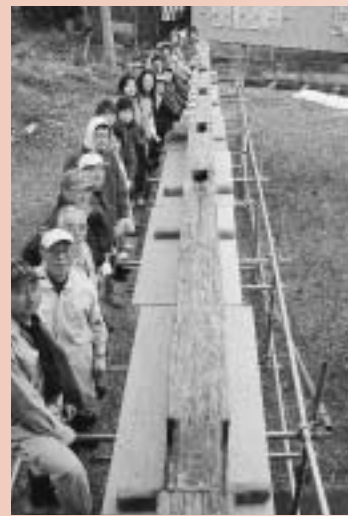
冬休みということもあり、市内各地から子どもたちの申込があり、最終的には28人の申込がありました。学年は1年生から6年生までその中で女子も6人含まれています。また、将棋の経験は全く初めてという初心者から戦術等も身につけた上級者まで様々ですが、将棋連盟の方々がそれぞれ



◀中には大人顔負けの実力の持ち主も参加している「北秋田市ちびっこ将棋教室」

れに応じた指導をしてくださっています。

子どもたちにとっては、将棋をするのはもちろん、他校の子どもたちとのふれあいも十分に楽しんで活動しています。



▲33年ぶりに光を浴びた胡桃館収蔵庫の遺材(長さ11.8m)

33年ぶりに太陽の光を浴びる ～胡桃館遺跡～

このほど、胡桃館収蔵庫から遺跡の木材状態チェックと全体写真撮影のために、運び出しが行われました。この写真は、C建物の土居(基礎)にあたる部分で、長さが11.8メートルと非常に大きなものです。

当日は、森吉山ダム遺跡、伊勢堂岱遺跡の作業に携わっている人たち合わせて25人が、足場を組んでようやく運び出しました。収蔵庫を建設、収蔵して以来、一度も外に持ち出していないため、実に33年ぶりに太陽の光を浴びました。

機械のない平安時代(千年前)の人々はどのようにして、大木を切り、運んだのでしょうか?



▲発掘当時(昭和41年ころ)



▼内容 (1) ワーキンググループの活動目的 (2) 伊勢堂岱遺跡の学術的価値 (3) フリートーク (4) これからのボランティア活動でめざすこと

▼参加対象 一般市民、歴史文化財関係団体ほか

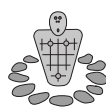
▼期日 平成19年1月20日(土)

▼時間 午後1時30分～3時30分

▼会場 北秋田市中央公民館3階大教室

▼参加対象 一般市民、歴史文化財関係団体ほか

◆ 遺跡のガイドやPRイベントなどでお手伝いいただいているのが「ワーキンググループ(WG)」の皆さん。このWGの皆さんと、これまでの活動や今後の遺跡の活用などについて語り合う会を開催します。◆ どの方でも参加できますので、関心のある方のご来場をお待ちしています。



伊勢堂岱遺跡について
ボランティアと語り合う会

『環状列石を築いた縄文人から学ぶ』

平成7年に大館能代空港アクセス道路建設中に発見され、これまで調査発掘作業が行われてきた伊勢堂岱遺跡。複数の環状列石を持つなど、縄文文化を伝える重要な遺跡として平成13年には国の史跡に指定されています。

学びの広場

- 公民館活動 ● 生涯学習
- 文化振興 ● 学校 ● スポーツ

地域で学び、活動する
皆さんを応援します

北秋田市
教育委員会

季節ハタハタを料理するにあつて、受講生の関心も高く、講師の金田靖子さんによる実演をメモを取りながら熱心に聞き入っていました。講習後、事前に漬けていたハタハタを汁を菜めし・具、たくさんみそ汁等と一緒に食し、旬の味覚を堪能しました。

がれてきた郷土料理です。

合川公民館主催講座「料理講習会」ハタハタ寿し」が12月14日と20日の2日間、合川農村環境改善センターで開催され、56人が受講しました。「ハタハタ寿し」は、酢漬けたハタハタを麴・野菜と一緒に漬けた冬場の保存食。佐竹藩時代に武士家庭で作られたものが普及して庶民の味となったと言われており、お正月の伝統料理として受け継がれてきた郷土料理です。

「ハタハタ寿し」作りに挑戦!

合川公民館「料理講習会」



▲お正月の伝統料理「ハタハタ寿し」作りに挑戦した合川公民館の料理講習会

年越しそばはこれでOK?

森吉公民館手打ちそば体験講座



▲プロのそば打ち職人の技を学んだ体験講座

12月9日、森吉コミュニティセンターで「手打ちそば体験講座」が開催されました。

今年は、能代市ニッ井町でそば店を営んでいる若松康夫さんを講師に、「二八そば」の作り方を教えてもらいました。楽しい講座には市内から19人が参加し、そばの歴史や栄養面、そば作りの工程などについて講話のあと、実技に入りました。

「水回し」「こね」「菊ねり」「丸だし」「四つ出し」「肉わけ」「たたみ、切り」の順番でそばを作り、自分たちで打ったそばをゆでて試食をしました。

今年の年越しそばは、これで大丈夫かな・・・?

「秋田音頭とこっから舞」を踊る

沢口公民館エンターテイメント講座



▲楽しく踊った「秋田音頭」と「こっから舞」

沢口公民館のエンターテイメント講座が12月16日同館で開かれ、13人の参加者が秋田の伝統芸能「秋田音頭」と宴席で踊る「こっから舞」に挑戦しました。

参加者は、「秋田音頭は、以前にも踊ったことがあるが忘れてしまった」と言いながらも、何回か踊っているうちに足運びも軽やかになり、踊りも結構な運動になることに改めて感心しながら、皆さんたっぷりと汗をかきました。

また、「こっから舞」は宴席のかくし芸として各地に伝えられてきましたが、最近は踊られることはほとんど無いようです。受講生は、民俗芸能としてこれからも練習し、地域の皆さんに楽しく伝えていきたいと、とても意欲的でした。